



永井 孝佳 議員



粗大ごみの戸別回収を

問 粗大ごみのステーション回収がなくなった理由は。

答 旭・銚子・匝瑳の3市で協議をして、現行のルールに足並みを揃えて統一した。

問 粗大ごみ回収を旭市だけ復活することは難しいか。

答 出資方法、ごみ処理手数料などのルールを統一しており、粗大ごみ回収を旭市単独で実施することは難しい。

問 粗大ごみを自分で搬入できない場合は、一般廃棄物収集運搬許可業者に依頼することになるが、業者が多く、どこに連絡していいかわからない。依頼先をわかりやすくできないか。

答 許可業者は14社あるので、整理してわかりやすい形でホームページに掲載などを考えていきたい。

問 運搬手段がない高齢者だけでも戸別回収できないか。

答 他市の事例なども参考にしながら研究していきたい。

ふるさと納税の拡充を

問 ふるさと納税の目標が1億5千万円ということだが、もっと増やせるのではないか。

答 1億5千万円という目標は、最近4年間の推移と返礼品の追加や企業版ふるさと納税の導入など、新しい試みを入れた中で設定した。頭の中では2億円を目指しており、それに向けて取り組んでいきたい。

問 魅力的な返礼品が一番大切だと思うが、どのような宣伝方法を予定しているのか。

答 本市の返礼品を気に入るリピーターも数多くいる。今後も選んでもらえるように魅力ある返礼品を拡充し、写真の撮り方も工夫して、サイトを通じて宣伝していく。

問 ターゲットは大事だと思うが、転出する人にふるさと納税をお願いするのはどうか。

答 本市出身の方や縁のある方が寄附を申し込めるような宣伝をしていきたい。

その他の質問事項

○シティプロモーションについて

「チーム旭」「オール旭」とは

問 今年の1月1日号広報あさひ中の年頭所感で「チーム旭・オール旭、市民への参加と協力」を呼びかけており、3月議会の予算編成方針の中でも、チーム旭でまちづくりの推進と強調しているが、行政のトップである米本市長のスローガン「チーム旭」「オール旭」とは一体どのようなものか。

答 市長のトップダウンでまちづくりを進めるのではなく、市民、市議会、行政委員会、審議会等と連携したまちづくりをイメージして「チーム旭」としている。そして、チーム旭でのまちづくり実現には、市が丸となって取り組む必要があるという思いから「オール旭」と表現している。

特定の団体を改めて組織するものではなく、様々な分野や世代から幅広く意見を聞き、持続的な発展を目指したまちづくりに反映したい。

グリーンベルト施工後の対策は

問 グリーンベルト施工後の安全対策について伺う。

答 グリーンベルトと並行する白線を引き直し、注意喚起のための路面表示の増設やカーブミラーの設置等、道路管理者としてできることから対応する。

地域防犯パトロールは活動しているのか

問 ぼろぼろに破れた「地域安全、防犯パトロール中 旭市」というのぼりがずっと同じところにかかれており、コロナ禍のせいか、活動している様子があまり見られないが、現在どのような活動をしているのか。

答 青色灯の車両による防犯パトロールを夕方実施しており、小・中学生の下课時刻に合わせ、市内を3コースに分けて、小学校区を年間150回程度巡回している。

その他の質問事項

- 文化・スポーツの充実を図る
- 旭二中生・若者世代・シニア世代の活動場所について
- 通学路要対策箇所の進捗状況
- ゾーン30プラスについて
- 子ども110番について



伊場 哲也 議員

